



自衛隊千葉地方協力本部

自衛隊千葉地方協力本部 「学生写真研究会（入間編）」



ブルーインパルス



エプロン地区での撮影



B I を撮影する参加者



自衛隊千葉地方協力本部は、引き続き各種広報イベント等を通じて、多くの人に自衛隊の魅力ややりがい発信していく。

参加者からは、「雨のため来るかどうか悩んだが、参加した甲斐があった。」「これからも自衛隊を応援していきます。」「などの嬉しい反応が上がり、本イベントの重要性を感じる事ができた。

写真撮影会では参加者から、エプロン地区に駐機された沢山の航空機を目の前にして感嘆の声が上がり、航空機に対し懸命にシャッターを切っていた。中でも、ブルーインパルスの撮影には、多くの時間を費やしてより良い写真を撮ろうとする姿が印象的だった。

写真撮影会では参加者から、エプロン地区に駐機された沢山の航空機を目の前にして感嘆の声が上がり、航空機に対し懸命にシャッターを切っていた。中でも、ブルーインパルスの撮影には、多くの時間を費やしてより良い写真を撮ろうとする姿が印象的だった。

写真撮影会では参加者から、エプロン地区に駐機された沢山の航空機を目の前にして感嘆の声が上がり、航空機に対し懸命にシャッターを切っていた。中でも、ブルーインパルスの撮影には、多くの時間を費やしてより良い写真を撮ろうとする姿が印象的だった。

写真撮影会では参加者から、エプロン地区に駐機された沢山の航空機を目の前にして感嘆の声が上がり、航空機に対し懸命にシャッターを切っていた。中でも、ブルーインパルスの撮影には、多くの時間を費やしてより良い写真を撮ろうとする姿が印象的だった。

自衛隊千葉地方協力本部（本部長 1等海佐 西川和宏）は、11月2日（土）、東部方面総監部が主催する「学生写真研究会（入間編）」へ千葉県内の高校生15名及び教員2名を案内した。

本イベントは、写真部等に所属する高校生・大学生を対象として、自衛隊への認知や興味・関心の向上を図るため実施された。

当日はあいにくの雨となったが、撮影技術講座及び航空機の写真撮影会が実施された。撮影技術講座においては、陸海空自衛隊の隊員が写真を撮影する上でのコツ等について自らの経験を踏まえて説明した。特に、航空自衛隊の隊員（通称「ジオス」さん）は、現役のF-2パイロットであり、どのように航空機が飛行すれば「映える」写真が撮影できるのかという「写真家目線」で飛行するため、同隊員が飛行する航空祭には多くの写真家が来場しており、参加者はサインをもらう等大いに盛り上がった。